校訓	盡　己	令和5年度学校通信 「松中だより」 第31号	発行日	令和6年3月4日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【卒業式練習・・・何のために、誰のために】

３月1日(金)からいよいよ卒業式の練習が始まります。入学式や卒業式は学校行事の中の「儀式的行事」といいます。その目的は「学習指導要領(教科等の目標や大まかな内容を定めたもの)」には次のように示されています。

> **学校生活に有意義な変化や折り目を付け，厳粛で清新な気分を味わい，新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。**

卒業式は「9年間の義務教育を終え、自分で決めた進路を、自分の力で、しっかりと歩み出すきっかけとするために行う」ということだと思います。

これ以外にも、卒業生の中には、「3年間共に過ごした友だちと、お互いの成長を確認し、参列してくださった家族や、地域の方、後輩たち、先生方に、成長した姿を見てもらい、感謝の気持ちを伝える」という思いを持つ人もいるでしょう。また、在校生は「部活や生徒会行事でいろいろおしえてもらった先輩に、感謝の気持ちを込めて、晴れの日をお祝いする」という気持ちで臨む人もいると思います。

服装や立ち居振る舞い、歌のことなど細かく言われると煩わしく感じる人もいるかもしれません。

> 大切なことは、それぞれの気持ちを表現したり、式の目的を達成するためには、どんな立ち居振る舞いがふさわしいのか、どんな歌を歌えばいいのかを、人に言われるのではなく、自分で考え、判断し、責任を持って行動するということだと思います。

みんなの力で、清々(すがすが)しい一日になることを期待しています。

「雨ニモマケズ」

宮沢賢治

雨ニモマケズ　風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ　丈夫ナカラダヲモチ
欲ハナク　決シテイカラズ　イツモシズカニワラッテヰル
一日ニ玄米四合ト　味噌ト少シノ野菜ヲ食べ
アラユルコトヲ　ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ　ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ　小サナ萱ブキノ小屋ニヰテ
東ニ病気ノコドモアレバ　行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ　行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ　行ッテコワガラナクテモイイトイヒ
北ニケンクヮヤソショウガアレバ　ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒデリノトキハナミダヲナガシ　サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ　ホメラレモセズ　クニモサレズ
サウイフモノニ　ワタシハ　ナリタイ

『雨ニモマケズ』は、作者である宮沢賢治の死後に発見された詩です。1931 年(昭和 6 年)の 11 月の手帳にあったこの詩は、病床に伏し、自らの死を覚悟した宮沢賢治が記したものでした。

『雨ニモマケズ』で語られる人物は、自分を律し真面目で、他人に対し優しい気持ちを持つだけでなく、実際に行動できて、時に挫折しそうになりながらも、前を向いて歩いて行く人です。

「そういう者に私はなりたい」というフレーズには、「本当の幸せとは何か」を考え続けた宮沢賢治の、生涯の願いが込められていると言えるでしょう。

（マイナビニュースより　抜粋）